



野球で福島を元気に!
 繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

第36回 JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会

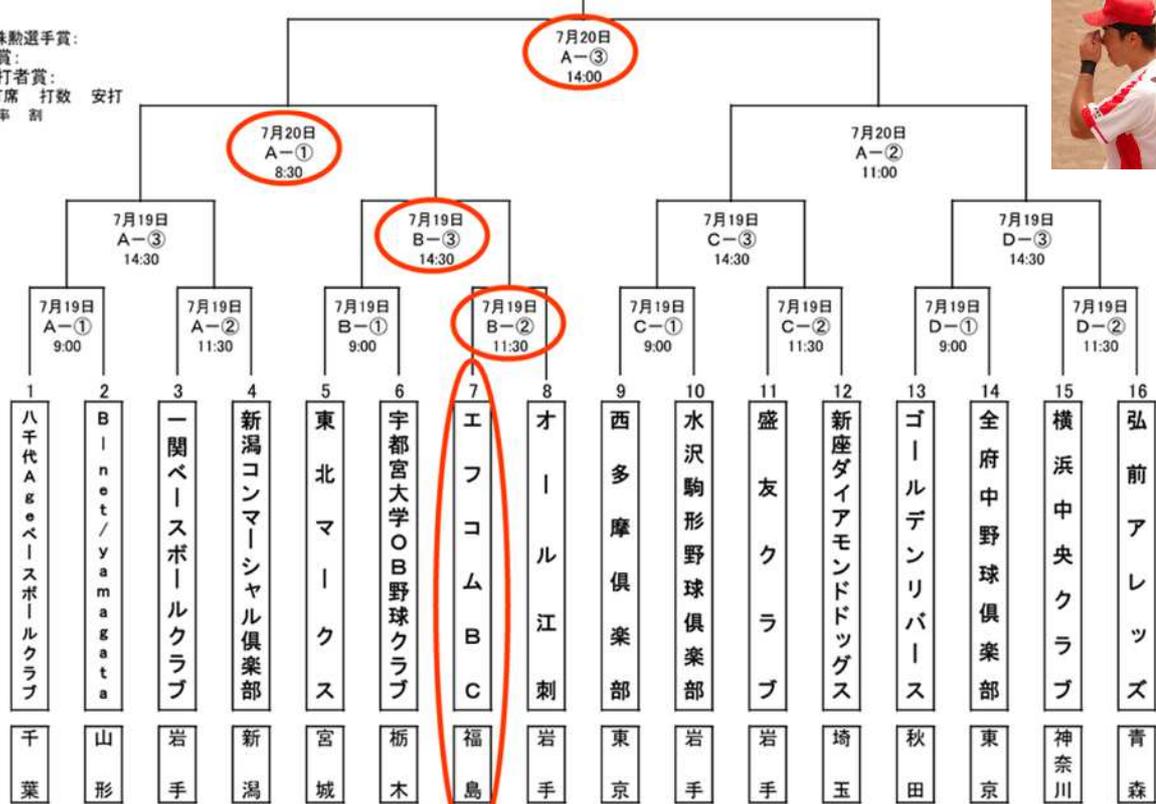
◇◇ 試合結果 ◇◇

一回戦	V S	オール江刺	(10対9)	勝利
二回戦	V S	東北マークス	(10対5)	勝利
準決勝	V S	八千代 Ageベースボールクラブ	(10対3)	勝利
決勝	V S	全府中野球倶楽部	(2対3)	惜敗

第36回JABA一関市長旗争奪クラブ野球大会

会期 2025年7月19日(土)~20日(日) ※雨天顺延は7月21日のみ 会場 A: 一関運動公園野球場
 主催 JABA東北地区連盟 B: 東山球場
 主管 JABA岩手県野球連盟・毎日新聞盛岡支局 C: 花泉運動公園野球場
 入場料 無料 D: 室根球場

最高殊勲選手賞:
 敢闘賞:
 首位打者賞:
 打席 打数 安打
 打率 割



関越から7チームが出場、真夏の熱い戦いは準優勝!

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



NEWS



エフコムベースボールクラブ

エフコムBC 中島 周作 監督兼内野手、主将の八百板 飛馬 外野手、そして
敢闘賞を受賞しました山形 胤舜 投手より大会のコメントをいただきました!

中島 周作 監督兼内野手

一関市長旗争奪クラブ野球大会において、多くのご声援頂きありがとうございました。岩手県開催の遠方にも関わらず、2日間とも多くのサポーターの皆様にご来場頂き感謝申し上げます。

残念ながら準優勝という結果でした。決勝は延長タイブレークでのサヨナラ負けで、死闘の中で貴重な経験もできました。

2日で4試合、また気温も高くハードな状況でした。中でも、選手達は一生懸命に試合に挑んでくれたと思います。来年こそはこの大会で優勝したいと感じました。

いよいよクラブ野球選手権になります。これまでの成果を発揮する大会に出来るよう挑戦して参ります。今後とも、応援の程宜しくお願い致します。



八百板 飛馬 外野手 (主将)

一関市長旗争奪クラブ野球大会においても、ご声援頂き感謝申し上げます。遠方にも関わらず多くの方々に球場に足を運んで頂きありがとうございました。

関東地区のレベルの高いチームと試合が出来たことは、全国大会を目指す上でも大きな経験になりました。大会を振り返るとまだまだ課題も残りましたが、今後の糧にして参ります。これからも、応援の程宜しくお願い致します。



山形 胤舜 投手 (新人)

仲間の声援やプレーに支えられて楽しく投げることができました。

しんどい中にも笑いや達成感があって、改めて野球の楽しさを実感しました。

次の大会ではこの経験を活かして、もっと安定したピッチングで次は勝ちを持ってきます!

※野球人生最長の9イニング2/3を一人で投げ切りました。素晴らしい熱投でした。



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

一回戦 VS オール江刺

東北6県と関東などから16チームが集い覇を競うこの大会。前年の都市対抗野球福島県大会の優勝チームにも出場権が与えられ、エフコムBCは一昨年がベスト4、昨年是一回戦で敗退という成績。今年は優勝を目指して一路岩手の地に乗り込んだ。2日間で決勝まで4試合、対戦相手はもとより暑さとの戦いが選手を苦しめた。

東山球場で行われた初戦の先発は照井。初回表に3点を献上もその後は立て直して中盤まで投げ試合を作った。初回裏の攻撃、八百板卓丸、松嶋、伊藤海斗、岩崎のヒットで2点を返す。3回は満塁の好機に茨木に長打が出て3点、4回も島崎、卓丸、松嶋が出塁し2点を追加。2回以降相手に点を与えず8対3で迎えた8回表、オール江刺の3安打と守備の乱れが重なり6点を奪われ1点のビハインドとなる。ここで負けるわけにはいかないエフコムBC、その裏は四球を選んで満塁とし4番の八百板飛雄馬がセンター前に執念で弾き返し二者を迎え入れて再逆転、炎天下の熱戦を1点差で逃げ切った。この試合、松嶋がトリプル安打を記録し気を吐いた。

照井 壮瑠 選手 <先発>
投手/出身校：福島北高校



伊藤 海斗 選手
外野手/出身校：酒田南高校



岩崎 凜太郎 選手
内野手/出身校：安達高校 ⇒ 東北公益文科大学



島崎 開史 選手
外野手/出身校：日立第一高校 ⇒ 福島大学





野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

二回戦 V S 東北マークス

一試合をおいて行われた二回戦、真夏の日差しは選手たちを容赦なく照りつける。打線は3回裏に三四球と島崎、卓丸、翼の安打を織り交ぜて4点を先制。先発の大内が汗だくで踏ん張る中、4回には吉田が右中間にソロホームラン。島崎ヒットの後、卓丸も負けじと2ラン本塁打を放ち7対0と試合を優位に進めた。東北マークスに5、6回で計5点を挽回されたが、終盤に得点を加えたエフコムBCが10対5で準決勝に駒を進めた。大内の力投、島崎、翼の3安打も光った。

【撮影枚数の関係で一部別試合の写真を使用しております。】

八百板 卓丸 選手
外野手/出身校：聖光学院高校

山上 遼真 選手 <投球練習のみ>
投手/出身校：弘前学院聖愛高校 ⇒ 仙台大学



大川 剛史 選手
捕手/出身校：日大山形高校 ⇒ 東北公益文科大学

大内 遼河 選手 <先発>
投手/出身校：福島高校 ⇒ 東北学院大学



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

準決勝 V S 八千代Ageベースボールクラブ

2日目の会場は一関運動公園野球場。初回表、先発ピッチャー渡邊拓海が相手打線につかまり2点を先制されるも、2番八百板卓丸のヒットから、松嶋が四球を選ぶと飛馬、海斗が連打し、翼のライトオーバーなどで4点を返して逆転に成功。2回の攻撃でも吉田を塁において八百板卓丸の確信歩きのホームラン、点差を更に広げて相手ピッチャーの交代を余儀なくさせた。渡邊拓海は毎回ランナーを出すものの、我慢のピッチングと味方の好守備にも助けられ7回を投げて3失点。

6回に卓丸、海斗の安打で1点を加えて8対3で迎えた7回裏の攻撃では代打の大平が四球で塁に出塁すると、島崎がレフト前ヒット、卓丸四球で満塁となった場面で松嶋が相手の守備者が追うのを諦めるセンターオーバーのヒットを放ち、7回コールドゲームで決勝へ進出。

準決勝では卓丸が全打席出塁で3安打の猛打賞。前日に続き翼も3本のヒット、海斗も3回出塁でチームを盛り上げた。ここまで三試合を終えてメンバーの疲労もピークに達しつつあったが、次の試合の間にこの大会の目標を全員で再確認して決勝への準備を整えた。

渡邊 拓海 選手 <先発>
投手/出身校：酒田南高校 ⇒ 東日本国際大学



八百板 卓丸 選手
外野手/出身校：聖光学院高校



八百板 飛馬 選手
外野手/出身校：聖光学院高校



渡邊 翼 選手
内野手/出身校：聖光学院高校



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



エフコムベースボールクラブ

決勝 V S 全府中野球倶楽部

決勝戦の相手は昨年の本大会初戦で敗れた全府中野球倶楽部、全日本クラブ野球選手権大会では雪辱を果たしたが、ここでも勝利して勝ち越しを決めたいところ。

決勝は大会史上に残る壮絶な投手戦となった。この試合を任された山形が三者凡退の上々の立ち上がりを見せると、相手チームの先発も三者連続三振で対抗するなど終始手に汗握るイニングが繰り広げられた。5回までノーヒットの打線は6回二死から島崎、卓丸、松嶋の連続安打で満塁と攻めたが無得点。一方の山形も走者を背負う場面も落ち着いたマウンド捌きで、つけ入る隙を与えず9回まで0対0で進んだ。迎えた10回表からはタイブレークとなりエフコムの攻撃は、一死後茨木のセカンドへの打球が相手守備の乱れを誘い1点。その裏、勝利をつかみかけた瞬間も垣間見えたが1点を取られて延長11回へ突入。先頭の松嶋のレフトオーバーの二塁打で一人生還、チャンスが続くも後続が打ち取られて追加点は得られず。その裏は不運なプレーが続き2点を奪われて2対3、真夏の熱戦が幕を閉じた。山形の10回途中までの熱投に大きな拍手が送られた。

山形 胤舜 選手 <先発>
投手/出身校：弘前学院聖愛高校 ⇒ 青森大学



高野 光輝 選手
捕手/出身校：聖光学院高校 ⇒ 敬愛大学



茨木 響也 選手
内野手/出身校：学法石川高校 ⇒ 八戸学院大学



松嶋 拓郎 選手
内野手/出身校：文星芸大付属高校 ⇒ 仙台大学



応援ありがとうございました！

※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。